

利用促進部会について

令和7年度の協議内容

【① 熊本市電における決済手段について】

	パターン①		パターン②		パターン③	
	現行の全国交通系ICカードを更新		バス・電鉄電車と統一 ※当初打ち出した方向性		全国交通系ICカード簡易型端末導入 + バス・電鉄電車と統一	
内容	端末	決済手段	端末	決済手段	端末	決済手段
		 全国交通系ICカード くまのんのICカード		 くまのんのICカード		 全国交通系ICカード くまのんのICカード
		 タッチ決済 QRコード		 タッチ決済 QRコード		 タッチ決済 QRコード
更新費用 (税抜)	再精査前の金額	約2億円	約1.1億円	約1.9億円 (パターン②+約0.8億円)	約1.9億円 (パターン②+約0.8億円)	約2.2億円
	再精査後の金額	約1.5億円	約1.4億円	約2.2億円	約2.2億円	約2.2億円
増減理由	・機器構成を見直し、一部機器を安価なものへ変更 ・機器構成見直しに伴う作業工数減少 など		・くまのんのICカードで定期券を実装する費用分の増額		・パターン②と同じ	
国補助 (補助率：1/3)			対象 (ただし、確実に受給できるかは未定)			

▲利用促進部会で説明した資料抜粋

部会での主な報告内容

- 費用の再精査の結果、パターン①が減額、パターン②及びパターン③が増額（金額は左図参照）
- また、全てのパターンが国補助の対象となる
- アンケート結果では、全国交通系ICカードの継続を望む声が多かった
- 乗務員アンケートでは、乗務員が全国交通系ICカード廃止に対する不安や負担を感じていることが分かった

部会でのご意見

- 1つの決済手段で市電・バス・JR等の公共交通を利用できることが望ましい
- 利用者のニーズに沿った決済手段が一番良いため、当該アンケート結果を踏まえた対応が今後目指すべき方向性だと感じている
- 市民が求めているのは安全性だが、機器の操作をする乗務員へ配慮をすることでより運行に集中することができる
- アンケート結果による利用者視点と更新費用という視点から、市全体としてあるべき姿を考えながら検討を進めていただきたい

費用面、利便性、安全面の観点から総合的に判断し、
全国交通系ICカードの継続を決定

【② 公共交通利用促進施策について】

(まちなかフリーパス実証実験)

部会での主な報告内容

- 利用方法の改善、周知広報の強化等により、利用者数は増加傾向
- 令和8年度にこれまでの取組の総括を行い、令和9年度以降の方向性について検討を行う

部会でのご意見

- エリア拡大やバス以外のモード(市電等)との連携、他のサービスとの連携を検討していただきたい

(公共交通利用促進補助金)

部会での主な報告内容

- 令和7年度から交通事業者が主体となって実施する「利用促進に資する取組」に対する補助事業を新たに創設
- 令和7年度は、「タッチ決済割引キャンペーン」を補助事業として採択

部会でのご意見

- 事業実施にあたっては周知広報を工夫するとともに、経済界との連携を強化し、住民・企業とともに公共交通利用促進の機運を高めていただきたい

渋滞対策は私たちから!!
タッチ決済で公共交通を利用しよう!!

タッチ決済ご利用で運賃が

20%OFF

対象路線
熊本市内を通る系統の路線バス
及び電鉄電車、市電

割引適用時間
平日 7:30~8:30以外の乗車
土日 終日20%割引
(ピーク時間帯は適用外)

キャンペーン期間
2025年12月1日(月)~12月31日(水)

詳しくはキャンペーンサイトをご覧ください

共同経営推進室 熊本市交通局・九州産交バス・産交バス・熊本電気鉄道・熊本市バス・熊本バス

【お問い合わせ先】 TEL:096-312-0388 ※当事業は熊本市の「公共交通利用促進補助金」を活用して実施しています。

▲タッチ決済割引キャンペーンチラシ